

<目的>

先に¹⁾、我々はタイプの異なる3種の反応分散染料で絹を染色し、スルファトエチルスルホン型(S型)が絹に対して最も適当であることを報告した。本報では、同じS型でも化学構造の違いによって、どのように絹に対する染着挙動が異なるかをしらべた。

<方法>

新しいS型反応分散染料を4種合成し、絹を一定温度、一定pHで染色し(浴比1:1000)、前報¹⁾と同様な方法で吸尽量と固着量を求めた。

<結果>

その結果、①どの染料の場合も温度が高いほど、また、時間の経過と共に吸尽量および固着量は多くなる。②染料濃度を高くすると、一般に吸尽量並びに固着量が増加する。③疎水性が大きい染料ほど染着し易い傾向が見られる(ただし、疎水性が大きすぎると溶解度が低いため、かえって染着量は減少する。)

1) 道明ら：家政学会第39回大会研究発表要旨集，p91(1987)